NIE特集
Newspaper In Education
毎月第2・4火曜日発行

入谷小

学校名　宮城県南三陸町立入谷小学校
所在地　宮城県南三陸町入谷童子下193の２
電　話　0226（46）2655
校　長　兵藤　文隆
児　童　105人

境界争いの勝利祝う

入谷打囃子の歴史を探れ！

知り隊

私たちの住む宮城県南三陸町の入谷地区には、古くから伝わる行事が数多く残っています。その中でも入谷打囃子は、1999年に宮城県の無形民俗文化財に指定されました。これを末永く伝えていくために入谷小の4～6年生は、講師の方から指導をいただき練習していますが、その由来は知らないことが多くあります。そこで「入谷の祭と打囃子を伝承する会」会長の西城新市さんにお話をうかがいました。

学芸会で披露された入谷打囃子＝昨年10月17日

「入谷打囃子の歴史は、今から250年ほど前の江戸時代、一人の猟師が射止めたイノシシの所有権問題が起源です」と西城さんは話してくださいました。

都で習い神社に奉納

当時は他領での猟は禁止でした。入谷に住む信四郎がイノシシを射止めた所が、入谷分と隣の登米分との境界地域であったため、自分たちの領分であると登米の猟師たちも主張し、境界争いになりました。

入谷側の人たちは、「勝利と信四郎の「無罪」を、入谷八幡神社にお願いし、かなえてくれたら祭典日に盛大な踊りを奉納すると誓いました。

その結果、境界争いが入谷側の勝利になり、それを祝って村の世話役が村人3人を京都に派遣し、祇園囃子や各地の打囃子を習得させ、祭典日に奉納することにしました。

入谷打囃子の曲目は、「通囃子」「矢車」「虎舞」「祇園」などの8曲の構成になっています。

「当時、衣装は家で準備したため、そろえられない人は近所から借りて出た人もいた」と言いますが、今と同じように色鮮やかな衣装を身に着けていたようです。

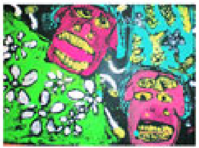
秋のお祭りでは、よその地区からも大勢の人が見物に来ます。踊り手が眠っている獅子を起こしたり、獅子を元気よく動かしたりするところが見ものです。ぜひ、みなさんも実際の入谷打囃子を見学したり、数多くある入谷の歴史に触れたりしてください。

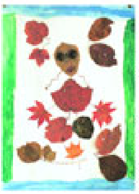
◇　◇

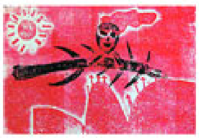
長い歴史のあるお祭りを通して「みんなで助け合いながら暮らす」という西城さんの考え方を知るとともに、これからは私たちが入谷の伝統芸能を伝承していかなければならない責任をあらためて強く感じました。

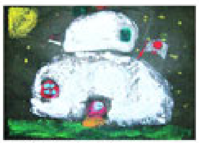
文・加藤美幸、佐藤美沙（5年）、阿部京香、西城浩樹、山内翔太（6年）

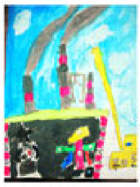
うきうきキャンバス

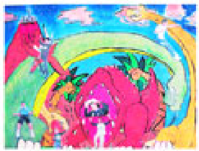

ししまい　1年・山内美空


自分　2年・菅原崇文


竜に乗った僕
3年・西城大輝


かがみもちのお家
4年・阿部康平


もしもし文字さん
5年・山内大和


恐竜の世界へひとっとび
6年・菅原佑真

言い隊

■大きな声であいさつ■

ある日の朝、通学途中にある作業場で大勢の人が仕事をしていました。私は、「おはようございます」とあいさつをしました。すると、ほんの2、3人の大人の人しかあいさつを返してくれませんでした。

私は、少しさびしい気持ちがしました。そこで、どうすれば集団でいる人たち全員とあいさつを交わすことができるか、自分なりに考えてみました。

まず一つ目は、全員に対してあいさつをしていることが伝わるように大きな声であいさつをする。そして二つ目は、相手の状況を見てタイミングよくあいさつをすることだと思いました。

（6年・西城佑香）

■自分の牛 大切に世話■

ぼくの家では、牛20頭を飼っています。じいちゃんが世話をしていますが、ぼくも朝夕のえさやりを手伝います。牛が出産するときには、じいちゃんと一緒に子牛を引っ張ることもあります。

ぼくが牛好きなのを見て、じいちゃんは、ぼくに子牛を1頭くれました。それから、その牛を自分の牛として大切に育てています。

宮崎県で口蹄疫という病気のために、たくさんの牛が処分されたという記事を新聞で見ました。牛も育てた人もどちらもかわいそうだなあと思いました。ぼくは、大切な牛が元気に育つように、しっかり世話をしていきたいと思います。

（5年・山内瑞樹）

教え隊　入谷古代米カレー

祖父母参観日に、古代米カレーを食べる

体験学習で感謝の会

昨年11月10日、祖父母参観日に古代米カレーを作って食べました。

５年前から育てている地元産の古代米を白米といっしょに炊きました。ジャガイモやニンジンなどの野菜はみんなで持ち寄り、５年生とお母さんたちが前日洗ったり切ったりしました。

体験学習でお世話になった方々への感謝の会をした後で、おじいさんおばあさんたちといっしょに体育館で食べました。おいしいので、みんなおかわりをしました。

来年度は自分たちで育てた野菜も入れたいと思っています。

文・菅原咲季、菅原藍香（５年）

編集後記

私たちは、総合的な学習の時間に古代米作りや入谷打囃子について学んできました。

古代米の学習では、収穫までに大変な手間と時間がかかることに気付き、コメの大切さを感じながら給食を食べています。入谷打囃子の学習では、年に15回ほど講師の先生方から指導していただいています。

この取材を通して、250年間守られてきた入谷打囃子のすばらしさを実感することができました。また、郷土芸能を受け継いできた先人たちの強い思いに感動しました。記事を通して、入谷の良さを多くの人に知ってもらいたいです。

〈編集委員〉菅原咲季、加藤美幸、佐藤美沙、山内瑞樹、菅原藍香（5年）、阿部京香、西城浩樹、山内翔太、西城佑香（6年）
題字デザイン　小林勇雅（5年）、菅原光希（6年）
〈指導教諭〉吉田修、佐藤勉、高橋菜穂子、熊谷美佐子

次回（22日）は、気仙沼小（気仙沼市）と上野山小（仙台市）です。